

米沢市SDGs「わたしのなせばなる」を紹介します

企業・団体名 九里学園高校 2年

代表者氏名 河井美聖

関係するSDGsの目標（ゴール）に○を書いてください。（複数選択可）

①貧困 	○	②飢餓 	○	③保健 	○	④教育 	○	⑤ジェンダー 		⑥水・衛生 	
⑦エネルギー 		⑧経済成長・雇用 		⑨インフラ・産業化・イノベーション 		⑩不平等 	○	⑪持続可能な都市 	○	⑫持続可能な生産と消費 	
⑬気候変動 		⑭海洋資源 		⑮陸上資源 		⑯平和 		⑰実施手段 	○		

取組のタイトル

子どもの居場所づくりを行う団体の効果的な情報発信についての検討

取組の説明

※SDGsの各ゴールの達成にどのように貢献するかなどを記載してください。

※欄が不足する場合や写真・画像がある場合は任意様式（A4タテ）で提出してください。

別紙のとおり（高校生チャレンジ発表資料より抜粋）

令和4年11月07日

子どもの居場所づくりを行う団体の 効果的な情報発信についての検討

九里学園高等学校 2年 河井 美聖

問題の所在

中島(2018)によると日本では
子どもの**7人に1人**が相対的貧困。

※相対的貧困とは？

→その国や地域の水準の中で比較して
大多数よりも貧しい状態のこと。

～米沢市における貧困家庭状況～

米沢市子どもの生活に関するアンケート調査
(米沢市役所2021年)

対象：小学5年生と中学2年生がいる世帯

回収世帯数	1,042世帯
A世帯	143世帯(13.7%)
B世帯	685世帯(65.7%)
世帯の区分の把握が困難	214世帯(20.5%)

A世帯：相対的貧困層
B世帯：その他の家庭

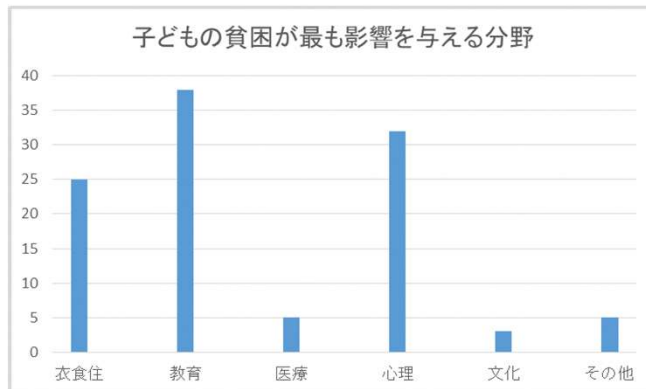
対象世帯中13.7%の世帯が相対的貧困。
米沢市でも貧困家庭が多数存在している。

～貧困が子どもに与える影響～

- ・ 学力不足
→将来、低所得者になる可能性も。
- ・ 心にゆとりがなくなる
- ・ **自己肯定感の低下や精神的不安を持つ**
→子どもの学習意欲の低下や、他者との関わりが億劫になる1番の要因になるのでは？

～セーブ・ザ・チルドレン(2010) 子どもの貧困についての国民意識調査～

子どもの貧困が最も影響を与える分野



対象：全国の20代以上の男女779人

内容：貧困への問題意識、貧困は増えていると感じるか、貧困が影響を及ぼす分野 など

国民のコメントでは…
子どもたちが感じる不安や孤独感を懸念する声が多く寄せられた

幼少期は…

“様々な**生活体験**や**文化的営み**を経験し、
豊かな人間性と社会性を育む期間”



貧困家庭の子どもは…

経済的余裕がないが故に、様々なことに体験する機会が減り諦めることが習慣化してしまう。

経済的資源の不足＝様々な事への意欲の不足



貧困家庭の子どもには
「**信頼できる大人**との関係の構築」
「学校以外で安心できる**居場所**の発見」
これらが必要となる

～居場所を提供する取り組み～

●子ども食堂

活動内容：子どもや保護者に食事等の提供

開催頻度：1か月に1、2回

対象：貧困家庭の子ども、困っている子ども、
居場所を求める子ども、その保護者

～子ども食堂の様子～

(米沢市フェリーチェの会、10月9日開催)

子どもたちが
里芋やジャガイモの収穫を
体験する



自分たちで収穫した食材を
実際に調理する

～子ども食堂の役割～

- ・ **社会経験を積むことができる場所**
- ・ 様々な人と触れ合い、**社会性を身に付けられる場**
(子ども食堂では、親でも先生でもない大学生や
大人と関わることができる)
- ・ 子どもだけでなく**保護者同士の交流の場**となる

●学習支援

活動内容：学習サポートや受験対策＋子どもへ居場所の提供

開催頻度：週に1回

対象：小学生～高校生

効果：大人や同世代の友達との**コミュニケーションを図る**、成績向上、**信頼できる大人**と出会うことができる

～子ども食堂が抱える課題～

①参加者(子ども)が集まらない、継続的に来る子どもが少ない

(米沢の子ども食堂の情報発信方法)

- ・ 学校・コミセンでのチラシ配布
- ・ 米沢の広報誌で活動内容についての掲載
- ・ Facebookなどでの掲載

→以上の取り組みを行っても参加者(子ども)が集まらない

学校でのチラシ配布・広報誌での掲載



参加者がなかなか集まらない

(考えられる理由)

- ・紙媒体では見る人が少ない
- ・子ども食堂等を認知していても“行こう”と思わない

②保護者や子ども本人が子ども食堂等に抵抗感や不安感を抱いている＋必要性を感じていない

→ 取り組みを認知していても
「子ども食堂等の場所に馴染めるのか」
「こういった場所に行かせていいのか」
という不安を感じる可能性がある

～米沢市子どもの生活に関するアンケート (米沢市役所2021年)～

○学習支援参加意向

保護者	参加させたい	参加させたくない
全体	42%	12%
A世帯	53%	7%
B世帯	42%	13%

保護者と子どもの
参加意向に差がみられる

子ども	参加したい	参加したくない
全体	26%	37%
A世帯	22%	35%
B世帯	25%	36%

A世帯：相対的貧困層
B世帯：その他の家庭

(参加したい理由)

- ・ 保護者... 塾はお金がかかる、家で勉強を見てあげられない
- ・ 子ども... 学校の勉強では不十分

(参加したくない理由)

- ・ 保護者... 必要性を感じない
- ・ 子ども... 学習支援の内容が分からない

○子ども食堂参加意向

保護者	参加させたい	参加させたくない
全体	19%	37%
A世帯	22%	27%
B世帯	19%	39%

A世帯...保護者も子どもも
参加したい割合より
参加させたくないが高い結果に。

子ども	参加したい	参加したくない
全体	30%	38%
A世帯	33%	41%
B世帯	30%	37%

A世帯・B世帯の保護者
“参加させたくない”に12%の差がある
→一般家庭から見ても
子ども食堂＝貧困家庭の子が行く場
というイメージがある

(参加したい理由)

- ・ 保護者...様々な人と関わる機会を持たせたい、
仕事で不在の時、子どもが心配だから
- ・ 子ども...様々な人と話をし楽しく過ごせるから

(参加したくない理由)

- ・ 保護者...必要性を感じない、
参加することでいじめられないか心配だから
- ・ 子ども...必要性を感じない、
知らない人たちだから

多くの家庭の子や保護者の中で

“必要性を感じない”

“参加することで何か言われそう”

と感じている人が多数見られた。



参加したいが、様々なこと(子ども食堂に馴染めるか不安、偏見を持たれそう)が要因となり参加しない人が多い

子ども食堂「フェリーチェの会」会沢さんによると...

子ども食堂の対象を**“貧困家庭の子・保護者”**にすることで、**来てもらいにくくなる**



情報発信の対象を貧困家庭に絞るのではなく、**全家庭に幅広く**情報発信することが大切

研究目的

“子どもの居場所づくり”を目的とする
団体における効果的な情報発信の検討



より多くの子どもと保護者に子ども食堂等があることを知ってもらい、自分が安心できる居場所を見つけてもらう

研究方法

情報発信の方法を考えるにあたって対象を以下のように分ける

- ①子ども食堂等自体を知らない人
- ②参加してみたいが、様々な理由で参加できない人

今後の展望

①SNSでの情報発信

方法：インスタやツイッターなどで活動内容や開催日時を告知する

課題：SNSは自ら情報検索するものであるため、まず検索してもらえるような策を練らなければいけない

②子ども食堂＝貧困家庭の人が行く場所というイメージを無くす

方法：誰でも子ども食堂等を利用できることを発信する＋子ども食堂の居心地の良さを知ってもらう

具体案

○子ども食堂のイベント化

理由:習慣化されている子ども食堂へ初めて
行く子どもの行きづらさを払拭するため
方法:公園や広場などで子ども食堂イベントを
開催、対象を絞らない、

参考文献

- ・中島(2018):子どもの貧困がもたらす社会的影響と教育格差・経済格差、
香川大学経済政策研究、14
- ・米沢市役所(2021年):米沢市子どもの生活に関するアンケート調査
- ・日本財団(2016):『子どもの貧困が日本を滅ぼす 社会的損失40兆円の衝撃』
pp131-141
- ・田中(2016):子どもの貧困解決に向けて、人権と部落問題、pp21
- ・吉田(2016):子ども食堂活動の意味と構成要素の検討に向けた考察・地域におけ
る子どもを主体とした居場所づくりに向けて、四天王大学紀要、62
- ・農林水産省(2019):子ども食堂と地域が連携して進める食育活動事例集-地域と
の連携で食育の環が広がっています- pp15
- ・廣繁・高増(2019):子ども食堂の継続的な運営に関する検討-現状と課題を
踏まえて-,日本女子大学大学院紀要・家政学研究科・人間生活
学研究科、26、pp87-97